『お山の杉の子』はこう変った

――平和教育の一つの素材――

前六五七号の通り、学童疎開記念像の名称は「輝け杉の子」となりましたが、当時も戦後も子ども達に歌われた「お山の杉の子」の変化の歴史は、そのまま平和教育の一つのきっかけとなりましょう。

少国民文化協会公募制定、軍事保護院献納の少国民歌。戦災で親を失った子どもたちを励ます趣旨の唱歌。はじめ没書籠に投じられた歌詞でしたが、選者のサトウ・ハチローが再度とりあげ、それに補作して、出来たものといいます。いよいよ太平洋戦争の終結を前にひかえて現れた作品でしたが、明るい楽しい歌で、何か終戦を思わせる響が感じられ、歓迎されました。レコードでは安西愛子と加賀美一郎とが歌いました。この歌詞は終戦後このままではよくないというわけで、下段のように改修を施し、ずっと歌われました。

お山の杉の子

吉田テフ子
サトウ・ハチロー（補作）

一　昔々の　その昔　柴の木林の　すぐそばに
小さなお山が　あったとき　あったとき
丸々坊主の　禿山は　いつでもみんなの　笑いもの
「これこれ杉の子　起きなさい」
お日さま　にっこり　声かけた　声かけた

二　一、二、三、四、五、六、七、八日、九日、十日たち
にょっきり芽が出る　山の上　山の上
小さな杉の子頭出して　「はいはいお日さま　今日は」
これを挨拶の　隣の木は
あっははのあっははと　大笑い　大笑い

戦前

三　「こんなチビ助　何になる」　びっくり仰天　杉の子は
思わず首を　ひっこめた　ひっこめた
ひっこめながらも　考えた　「何の負けるか今に見ろ」
大きくなって　国のため
お役に立ってみせまする　みせまする

四　ラジオ体操一二三　子供は元気にのびてゆく
昔々の禿山は　禿山は
今では立派な杉山だ　誰れの家の子のように
強く　大きく　逞しく
誰の木見下す大杉だ　大杉だ

五　大きな杉は何になる　兵隊さんを運ぶ船
傷病の勇士の寝るお家　寝るお家
本箱　お机　下駄　足駄　おいしいお弁当たべる箸
鉛筆　筆入れ　そのほかに
うれしやまだまだ役に立つ　役に立つ

六　さあさ負けるな杉の木に　勇士の遺児なら　なお強い
体を鍛え　頑張って　頑張って
今に立派な兵隊さん　忠義孝行ひとすじに
お日さま　出る国　神の国
この日本を護りましょう　護りましょう

「少国民文学」昭19・11

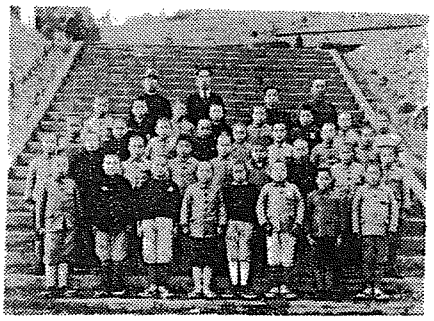
戦後

三　「こんなチビ助　何になる」　びっくり仰天　杉の子は
思わず首を　ひっこめた　ひっこめた
ひっこめながらも　考えた　「何の負けるか今に見ろ」
大きくなって　皆のため
お役に立ってみせまする　みせまする

四　ラジオ体操はがらかに　子供は元気にのびていく
昔々の禿山は　禿山は
今では立派な杉山だ　誰でも感じするような
強く　大きく　逞しく
誰の木見下す大杉だ　大杉だ

五　大きな杉は何になる　お舟の帆柱　梯子段
とんとん大工さん　たてる家　たてる家
本箱　お机　下駄　足駄　おいしいお弁当たべる箸
鉛筆　筆入れ　そのほかに
たのしやまだまだ役に立つ　役に立つ

六　さあさ負けるな杉の木に　すくすくのびろよ　みなのびろ
スポーツわすれず　頑張って　頑張って
すでに立派な人となり　正しい生活ひとすじに
明るい　楽しい　この日本
わが日本をつくりましょう　つくりましょう



送られてきた疎開当時のなつかしい写真（住吉小関係）

学童疎開記念像“輝け杉の子”のために

川教組カンパ　目標　1人　500円

期間　6月15日～29日

※2,000円以上の寄付者へは、「記念誌」(10月末)を贈呈します。